

報 告 書

(委 員 会 名) 文教厚生常任委員会

(視 察 日) 令和 6 年 1 1 月 1 1 日 (月)

(視察先都市名) 神奈川県川崎市

(視 察 項 目) 川崎市子ども夢パーク

(内 容) 報告者 山 本 武 志・高 城 庄 佑

1 目的

昨今、子どもの不登校が全国的に問題となっており、それは敦賀市においても例外ではない。

現代の生きづらさを象徴するかのようなこの問題について、先進的な事例を視察することで、議会としてより知見を広め、問題解決に向けての政策提言等に生かすことを目的とする。

2 内容

神奈川県川崎市にある「川崎市子ども夢パーク」は、2000年に川崎市子ども権利条例が成立したことをきっかけとして、子どもの権利を守り、子どもが自分らしく生きていくことを支えるために、2003年に設置された。園内には、「プレーパーク」、「フリースペースえん」が併設されている。

なお、条例制定に向けては、「権利の相互尊重」を共通認識とするまでに時間を要したが、人間として大切な「子どもの権利」を守ることにつながることができたとのことであった。

プレーパークは、誰でも利用可能かつ、自然の素材や道具などを使い、子どもたちの遊び心によって自由につくりかえられる遊び場で、「ケガと弁当は自分持ち」という言葉のもと、子どもたちの「やってみたい！」という挑戦する気持ちが大切にされている。社会教育の視点に立って、集まった子どもたちや、地域のさまざまな人との交流から育ち、学ぶことができるなど、家や学校とは違った立ち位置での子どもの居場所になっている。

フリースペースえんは、利用料無料、登録制の日本初公設民営のフリースペースで、年齢、国籍、経済的状況、障がいの有無に関わらず、さまざまな子どもや若者に利用されている。

1日をどのように過ごすかは自分で自由に決めるが、ここでも子どもたちの「やってみたい！」が大事にされており、誰かがやってみたいと思ったことは、みんなが参加するミーティングで提案され、「この指止まれ」方式で仲間集めをして実現していく。昼食は、その日に食べる人たちで献立を立て、みんなで作ってみんなで食べる。畑での収穫やお菓子作り講座や理科実験の授業、音楽体験や演劇講座など様々な講座が準備されているほか、キャンプやスキー合宿などもある。本人の希望があれば、個別のニーズに対応した学習支援も行っている。

3 考察・感想

現代の公立学校では、とにかく事故がないように、いじめがないように、1人も取りこぼさないようにということで、大人がルールを作り、管理していくことが多くなりがちだが、川崎市子ども夢パークは、設置する段階から、子ども委員を大人委員の倍以上多く選任するなど、子どもたちの意見を聞いて作ったり、運営上の重要なルールも子どもたちが自分で決めたりするなど、子どもが中心の居場所づくりを心掛けていることが伺えた。

理事長の言葉の中に、「現代の教育はやりたいことよりやらねばならないことを優先させている。」

一所懸命やればやるほど、苦しむ人が多くなるという、現代の教育の問題点を改めて考えさせられた。

不登校は全国で今や34万人超えと、少子化と並んで大きな社会問題となっているが、子どもが、これからの地域社会や国を守る、より一層の貴重な財産であるからこそ、今こそ、より子どもの権利を認め、子ども中心の教育を実施することが肝要だと感じた。

また、今後、日本の仕事はAIが取って変わる時代に入るとあり、これからの子どもたちに求められる力は「非認知能力」ではないかとの話しがあった。「非認知能力」とは、「人間として生きていく力を育む」ことであり、それは「遊び」を通じてでしか得られないとの言葉が印象に残った。

学校教育の「制度疲労」が限界に来ていると言われる中、平成28年12月には、「教育機会確保法」が成立し、学校以外の場で学び、育つ選択肢を増やすことが定められた（将来的な自立を目指す）が、敦賀市では何ができているか強く考えさせられた。

この視察で学んだ知見を活かし、敦賀市における取り組みについての政策提言としたい。

1市（県・町・村・施設）ごとに、1枚作成（2ページにわたっても可）

＊ 視察先ごとに、考察・感想を加えてください。